

第5回 諏訪地域の高校の将来像を考える協議会 議事録

次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 令和2年度 協議会新任委員の紹介
- 4 協議会 副会長の選出について
- 5 経過報告
 - (1) 長野県教育委員会の高校再編スケジュール変更について
 - (2) 当協議会の今後の日程について
- 6 協議事項
 - (1) 県立高等学校同窓会からの意見・希望等の聴取について
 - ①富士見高校、②茅野高校、③諏訪清陵高校、④諏訪二葉高校、⑤諏訪実業高校、
⑥下諏訪向陽高校、⑦岡谷南高校、⑧岡谷東高校、⑨岡谷工業高校
 - (2) 委員相互の意見交換
- 7 その他
- 8 閉 会

【議事録】

1 開 会 全体進行（事務局）

・会議は公開 マスコミ各社、一般傍聴希望者を認める（傍聴者12名）

・欠席者

（敬称略）富士見町教育長 脇坂 隆夫

茅野商工会議所 会頭 細田 秀司

富士見町農業委員会 会長 五味 公守

公立諏訪東京理科大学 学長 小越 澄夫

下諏訪町青少年健全育成協議会 会長 本山 公之

以上5名

（諏訪市教委）

前回委員の皆様にお集まりいただきましたのが、2月14日でございますので、概ね半年ぶり以上の会議となります。本来ですと、4月に第4回目の会議を開催の予定でしたが、コロナ禍ということで、書面の会議としていただいたところでございます。改めてご了解をお願いいたします。さて、本日の会議も公開で行ってまいります。マスコミ各社の他に、一般の傍聴希望者の入室を認めていますので、予めご了解をお願いいたします。また、本日は諏訪圏域内の県立高校の同窓会からの意見聴取を予定しております。高校の同窓会の役員の方々に、途中ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

・欠席者確認

・資料確認

①協議会次第 ②「再編・整備計画」策定スケジュールの変更について ③県立高等学校同窓会からの意見・希望等について（事前配布） ④同窓会への質問書

2 会長挨拶

○会長 金子ゆかり 諏訪市長

残暑が続いている上に、本年度は当初からコロナ感染症対策により大変なご苦勞をいただいております。お忙しい中、委員の皆様には、協議会にご参集をいただきありがとうございます。この諏訪地域の高校の将来像を考える協議会、本日第5回目を迎えますが、このコロナの影響で世の中相当大きな動き、また、ポストコロナに向けて、世界社会の変革が加速しているという感触をもっております。数年前から高校につきましても、新たな高校づくりと言うことで、県教育委員会にご指導頂いている最中であります。

この諏訪の地域においても、6市町村内における県立高校の将来像を、地域としてどのような考えの中で要望を踏まえ、まとめていったらよいか、後のテーブルのこともありますが、今、世の中テレワークとか、ワーケーションですとか、コロナの影響を受けまして、こうした事柄がいろいろあちこち回っておりまして、行政でも総務省が中心にマイナンバーカードなど、行政のシステムの効率化を目指していますが、全体的にも、国の制度を支えていこうという大命題の中で取組が進められています。

その中で、学校におきましても例外ではなく、プログラミング教育というソフトの部分と、今回のコロナの対策を受けて、学校の通信環境を整え、一人パソコン1台というGIGAスクール構想が一気に進み始めています。

そうした中でも先進国の中で日本が、エンployee・エクスペリエンス、EXと言いますが、ようするにデ

デジタル化に脱皮していくという動きの中では、大変遅れをとっている国になっています。ということで、全体的に社会の大変革期を迎えていることを考えると、これからの将来を担っていく子ども達が学ぶ環境はどうあって欲しいか、どうあるべきかという大変大きな命題であると思います。第4回につきましては、先ほど紹介がありましたように、書面会議という形にさせていただきました。

本日は皆さんにもご協力いただきましたが、感染症の対策をしっかりと講じた上で、また、ご配慮を頂きながら会議を進めてまいりたいと思います。本日新たにご就任をいただきました皆様にはこの後大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。また、傍聴席にご出席をいただきました同窓会の皆様やご出席の皆様もよろしくお願ひいたします。

3 令和2年度 協議会新任委員の紹介

- ・委員の交替があったため、事務局より紹介(資料「次第」P1の委員名簿参照)
 - 8番 原村教育長 清水 幸次委員
 - 21番 令和2年度諏訪地区PTA連合会 会長 濱 義国委員
 - 22番 諏訪郡市中学校長会 会長 名取 秀樹委員
 - 24番 諏訪地域振興局長 小山 靖委員
- ・人事異動により幹事会の委員も変更(資料「次第」P2委員名簿参照)

4 協議会 副会長の選出について

- ・役員を選出については、「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会設置要綱」第4条1項により委員の互選により選出することになっている。本会の初回において、会長に金子諏訪市長、副会長に今井岡谷市長と原村の当時の五味教育長を選任しておりましたが、五味原村教育長が退任されましたことに伴いまして、副会長1名が空席となっているため、要項により副会長1名を互選により選出する。選出については、事務局の幹事会で協議をした結果の腹案をお示し、互選に代えたい。幹事会において了解されました案として、副会長を茅野市の教育長山田委員をお願いをしたい。

○副会長 山田利幸 茅野市教育長

- ・就任の挨拶 諏訪地域の高校の将来のために、金子会長と今井副会長と共に、しっかりと汗を流してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

5 経過報告

(県教育委員会) (1)長野県教育委員会の高校再編スケジュール変更について説明

1点目の全体スケジュールの変更ですが、全県の「再編・整備計画」の策定スケジュールについて、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」で示している「再編・整備計画」の策定・公表の時期を2022年(令和4年)3月とすることとしました。令和2年中に、協議が終了し、県教育委員会へ意見・提案があった地区の計画及び一次案調整につきましては、2021年3月に公表予定の、再編・整備計画二次案で示す予定です。続きまして、一次案、二次案で策定した以外の全県を対象とした計画は、2022年令和4年3月に公表予定の再編整備計画全県案で示す予定です。それぞれの案の公表を、各地で住民説明会等により県民の皆様方に説明と周知を図ります。その後、県議会等の議論を経て、再編・整備計画を9月以降確定していきます。なお、一次案については、全県の再編・整備計画の策定を待たずに、県民への説明と周知を図り、県議会等での議論を経て、前倒しで確定し実施してまいります。以上が変更スケジュールです。

2点目ですが、各旧通学区の地域の協議会の状況について、簡単に説明をさせていただきます。協議会終了の旧通学区ですが、現在終了しているのが、第1岳北、第2須坂、中野、第5上田、第6佐久、第8上伊那、第9南信州となっています。但し、第2と第5以外は一次、第2、第5は2次案で提案する予定となっています。また、協議会継続中の通学区ですが、長野第3通学区、第4千曲市、第7東筑、第10木曾地域です。第10は素案ができて、8月28日今週末からパブリックコメントを1ヶ月間実施する予定でおります。続きまして、旧第11松本地区、こちらは住民説明会を現在行っております。8月28日今週金曜日に、安曇野市で実施方針の説明会を行って、その後第1回の懇談会を行う予定です。日程については、現在調整中です。続きまして旧第12大北地域ですが、こちらも日程を現在調整中です。

(司会) 県のスケジュール変更を受けて、過日この協議会の幹事会で協議をいたしました、今後の協議会の日程について報告します。

(諏訪市教委) (2) 当協議会の今後の日程について

当協議会の日程については、次第のある資料3Pをご覧くださいと思います。当初の日程では、本日の同窓会からの意見聴取につきましては、6月に行いまして、7月から8月にかけて意見書の素案作成に向けて会議を行う予定でしたが、コロナ禍の中におきまして、予定通り協議会を開催できない状況となったことから、先に開催しました幹事会において日程の変更を協議したものです。本協議会は昨年の9月27日に第1回の協議会を開催して、4月30日、書面でしたが第4回まで行っています。この第4回につきましては、保護者(P T A関係者)からの意見、それから子どもたち(中学生)からの意見聴取につきまして委員の皆様に取りまとめたものを送付する形を取らせていただきました。3Pの資料の中段の太い点線以降が今後の日程となります。本日、高校同窓会関係者からの意見聴取を行いまして、これまでの意見聴取を基に、8月から9月にかけて、幹事会において意見・提案書の素案を検討・策定して作成します。その後10月から11月頃に本協議会における素案についての協議を予定しています。それから、パブリックコメントを実施して、地域住民の皆様のご意見を伺った上で、意見・提案書の成案を決定する協議会を開催したいと考えています。当初の予定から数ヶ月の進行の遅れがあるものの、年度内には意見・提案書をまとめ、長野県教育委員会に提言していく予定です。前段で県の高校再編スケジュールの変更に関わる説明がありましたが、当協議会の意見・提案書につきましては、可能であれば県の二次分の計画策定に反映できるよう進めてまいりたいと考えています。

(司会) 2点の発表について、ご意見、ご質問等がありますか。

宜しければ、提案された日程にそって、今後協議を進めてまいりたいと思います。

6 協議事項

(1) 県立高等学校同窓会からの意見・希望等の聴取について

(司会) 次第にしたがって議事進行させていただきます。本日は高校の将来像について、郡内の県立高校の同窓会の皆様方より意見聴取を行います。各同窓会からのご意見につきましては、既に書面にて提出していただき、事前配布資料としてお配りしております。この配布資料に沿いまして、各市町村の担当課長に概ね5分程度で、意見集約した内容を説明して頂きます。各学校の説明の後に、本日の協議会に参加を希望されました、富士見高校及び岡谷南高校の同窓会の方々より、補足説明を5分程度をお願いいたします。本日は時間の都合により、同窓会への質問は行いませんが、意見書作成のために必要な質問がある場合には、別紙、同窓会への質問書にお書きを願います。後日事務局を通して、同窓会から回答を頂いて、皆様に報告をする予定です。

次第に記載されています高校の順番で進めさせていただきます。

① 富士見高校 富士見町教育委員会子ども課長 小林 裕樹(事前配布資料P1)

富士見高校同窓会の方から意見聴取いただいた件について、資料に基づき報告をさせていただきます。質

問項目の①、貴校の誇れる伝統という項目の一番上段ですが、本校は、昭和2年創立で今年94年目を迎えています。「地域振興100年の計は地域学校教育にあり」という建学の精神に基づいて来ております。3番目の、地域と連携した活動が盛んで、特に農業教育と普通教育を通して地域で活躍する人材の育成に努めてきたという実情があります。その関係を具体的にしたものが、下から2番目になります。地域の伝統の継承、地域課題の解決や地域の活性化にも力を入れていただいている中で、平成24年には、日本学校農業クラブ全国大会で「文化・生活の部」で優勝したという実績がございます。最後のところですが、最近の話題にもなりましたが、同窓会として物心両面にわたり教育活動を支えていただいている中で、平成30年にはグローバルGAP認証ということで、水耕トマトのフルティカと言う品種について、全国の農業高校では6番目、県内の高校では初めて取得をしたと言う事でした。

次の質問項目となります。将来の諏訪地域を担う人材を育てる役割ということで、一番上ですが、富士見高等学校では、「富士見の森」というランドデザインを掲げておまして、以下の点について特に力を入れて、人材を育てて行きたいということで取組んでいます。下から2番目ですが、「自分という大地にまいた夢の種を育てよう！」ということで、可能性を広げるという願いのもと、「自己設計力の育成」に努めて欲しい。もう一つの視点としては、「地域」という大地にまいた夢の種ということで、それが、強いては「地方創生の担い手として人材育成している。この二つの大きな利点について、諏訪地域を担う人材として、富士見高校の役割というものを意識しながら努めてもらうということです。最後、自由記載ですが、本日同窓会会長、副会長がお見えになっておりますので、会長の方から述べさせていただきたい。

【補足説明】 富士見高校同窓会長 細川 忠國様

直接聞いていただきたいと思いがあり、ありがとうございます。今、町の課長の方から説明させていただいた通り、質問事項の①、②、③は、8月11日に臨時役員会を開いて懇談会を持ちました。今、司会者の方からこれに対する補足説明をということでございますが、これからは私の意見を申し上げます。

今回このような形で7月22日に課長さんから話を聞いて、8月18日までに同窓会の意見を団体として集約して欲しいとのことですが、時間的にも短く、開催が困難で多くの意見を聞くことができませんでした。上伊那では、各同窓会を訪問して、聴取したということも聞きました。ある統計によれば、2040年までに、全国の過半数の896の自治体が消滅する。また30年後には高齢化率が38%に上昇し、人口も2000万以上少なくなると言われている中で、この地域の生徒をどのような学校の中で学ばせて行くかを考えた時に、現在の公立高校9校38学級を、私は6校36学級と考えています。県の皆さんは8学級が理想だと何回も言われておりますが、8学級の学校を2校、その内1校は旧一期校に行けるような学校をつくっていく、また1校は職業高校として、園芸、商業、被服、機械、電気、環境、電子科学、情報技術等の職業高校としていく、また、6学級の学校2校、4学級の学校2校をつくる。私は、最低でも1学年4学級は必要と考えている。富士見高校は昨年から2学級になってしまっています。これではもう部活も制限されてしまっている。そのことを考えた時、この状況で行けば、私は、今40人学級ですが35人、そして段階的には30人にしていけばやっていけると思っています。最後になりますが、義務教育では自分で自分の母校を決めて、学校を選んできていると思います。この地域の学校には名物先生、名監督がいるような魅力ある学校をつくっていくことが必要ではないでしょうか。皆さん、この際、令和の大改革をしましょう。

②茅野高校 茅野市学校教育課長 五味 正(事前配布資料P2)

茅野高等学校の同窓会から頂きました意見・希望で、学校の誇れる伝統については、”生きる力を求め地域を担わんとここに学ぶ”この基本理念のもと地域に根差した教育が継続されているということです。次に2番目の、将来の諏訪地域を担う人材を育てる貴校の役割として育成すべき人物像ですが、多様化する生活環境の中で、様々な出来事に興味と感心を抱き、自らの考えと行動で体験し、その体験を経験として生かせる人材の育成。2番目の目指すべき高校の姿は、基礎知識に加え将来につながる体験型の学習を進める高校ということです。3番目として、目指す地域連携ですが、小中高が同じ目標を設定して、子ども同士が連携

する事、また、学校と家庭と地域が三位一体となり教育に関心を寄せる事としています。

更に自由記載ですが、コロナにより集団生活の大切さを改めて感じ、この経験を次の社会生活に生かして、保健や道德教育などにつなげたい。高校再編については、主役は子どもたちであることを念頭に、子どもたちに多様な学びの環境を提供する仕組みが好ましいという意見を頂いている。

③諏訪清陵高校 諏訪市教育総務課長 柳平 直章(事前配布資料 P3)

まず①であります。諏訪清陵高校では、自分の信じる道を困難があっても突き進む気概を持った人材を育成してきたこと。また、社会の第一線で活躍出来る人材を多く輩出してきたことなどが、誇れる伝統であるとのご意見でございました。

それから2番目の、将来の諏訪地域の人材を育てるという役割の部分では、グローバル化とローカリゼーションのバランスと最適化、またそれぞれの世界で活躍できる人材を育成すること、そして、唯一の中高一貫教育校であることから、社会の様々な分野で活躍出来る尖った人材を育成していくこと、などが挙げられています。

なお、諏訪地域には中高一貫教育に基づく2校の普通校と、職業高校1校があるべき姿であり、かつ、職業高校は高専方式の5年教育とする、そんなご意見もございました。いずれにしても将来を見据えた小中学生や、親たちの期待に応えられる学校を目指すことが役割であるというご意見であります。

3番の自由記載欄では、高校改革だけではなく、小学校から大学までの全体を通した教育のあり方を、抜本的に見直す時期であるという、そんなご意見もございました。なお、清陵高校同窓会では、同窓会の総会を開催していないということから、このご意見は同窓会長、それから役員の個人的見解ということではあります。以上のようなご意見をいただきました。

④諏訪二葉高校 諏訪市教育総務課長 柳平 直章(事前配布資料 P4)

まず1番でございますが、諏訪二葉高校は、明治34年の諏訪補習女学校としての創設以来、昭和62年に男女共学校開始までは女子高として、長い歴史を持つ進学校であるということ、そして、現在までに国内外の様々な分野で活躍する人材、社会に貢献する人材を輩出しており、特に多くの女性の人材を輩出しているというご意見がございました。また、教育目標として「自主・努力・感謝」を掲げ、女学校、女子校、男女共学校と変遷している中であっても、常に「自主」を大事にし、いつの時代でも「性別を問わず、その個性を重んじ、個々の関心や特性を主体的に生かせる環境」の中で、「誰もが自由闊達に高校生活を送ることができる」という伝統が根付いている、というご意見がございました。

②番については、前身が女子校である男女共学の進学校として、どのような職についても、「性別にかかわらず、真に互いの特性や才能を認め、誰もがその力を遺憾なく発揮できる共存社会を築いていく先頭」に立つ人材、それから故郷を愛する生徒を育てたい、というご意見、また国内外で活躍し、故郷の外から応援できる高い学力を持つ生徒を育てて欲しいというご意見がありました。普通科の高校として深い学びを求めるといふご意見の他、商業科や工業科などの専門性を持った高校に短期で学べるような、多様性のあるカリキュラムがあると良いというご意見も頂戴しています。③の自由意見は特にございませんでした。

⑤諏訪実業高校 諏訪市教育総務課長 柳平 直章(事前配布資料 P5)

①番ですが、諏訪実業高校は、商業科、会計情報科、服飾科の専門校として、また、諏訪地域で唯一の定時制課程を有する高校として、生徒は在学中に各種検定資格を取得して、金融機関や商業関係に多くの優秀な人材を輩出してきたことが、誇れる伝統であるとのご意見でありました。

②番目の将来の諏訪地域を担う人材を育てる学校の役割では、2016年に文部科学省からの、スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)の指定を受け、専門校として高度な知識と技能を身に付け、社会の第一線で活躍出来る専門的職業人を育成する、という趣旨によりまして、SPHの指定終了後も引き続き同窓会が事業継続を目指していくというご意見が挙げられています。

また③の自由記載欄では、先ほども同窓会の方からお話がありましたが、近年は男子生徒の減少により、

運動系の部活動でチームが組めない状態が続いていることから、ある程度の生徒数が必要だというご意見が挙げられています。諏訪実業高校の同窓会におきましても、やはり同窓会総会を開催していないということで、ご意見、ご希望は同窓会長の個人的見解ということでございますが、以上のようなご意見を頂戴したところであります。

⑥下諏訪向陽高校 下諏訪町教育こども課長 本山 祥弘(事前配布資料 P6)

始めに1項目、本校の誇れる伝統に関しましては、他校に比べ40年と歴史は浅いですが、自由な校風や落ち着いた雰囲気は、我が校が培ってきた伝統であります。学習面や部活動では、全国レベルでの大会出場を果たすなど、そうした教育環境は向陽の特質すべき点の一つでもあります。また、下諏訪町との連携ではイルミネーションの装飾など、生徒が行う地域との連携や小・中学生との交流など、特に新しい事に挑戦する姿は、地域の方に大変好評を得ており、先輩たちが築き上げてきた伝統の一つでもあります。

次に2項目の人材育成のための役割ですが、地域を担う人材を育てることの重要性は良く認識しておりますが、諏訪地域限定という考え方ではなく、広く社会に貢献できる人材の育成こそが重要と考えております。

最後に3項目の自由記載の関係であります。何点かございますが、ポイントを絞ってお話をさせていただきます。まず、少子高齢化の関係であります。現行の公立高校を今後維持していくことは困難という考えは、全ての高校で共有しているものと思っておりますし、通学区を越えて、自分が行きたい学校を自由に選択が可能な中、通学区毎の議論は単なる削減のための議論であって、無くすことは相成らんとするのは必至であります。県はこうした少子化や経済的負担など、今、直面している課題についてもっと説明をする必要があると思っております。一部役員の中には、統廃合の議論には50年の計があつてのことと認識をしています。仮に我が校が廃止されても、それが将来を見越し、今の子が親世代になった時の負担軽減、人と人の繋がりや学習機会の確保のためのものと理解します。そのための土壌は形成されつつあるという意見も頂いております。また、適正な校数を決めた上で、校名を特色ある名称に変更してといった意見も頂いております。最後になりますが、本日は私たち同窓会が、文書による意見を提出できる機会を頂いたことに感謝申し上げます。

⑦岡谷南高校 岡谷市教育総務課長 両角 秀孝(事前配布資料 P7)

①の貴校の誇れる伝統につきましては、「文武両道」を校風にもち、伝統的な取組の成果としまして、地元経済・文化・行政各界への多くの人材の輩出、地域のみならず世界に視野を広げることができる人材の輩出、あるいは文化部門における多くの活躍、運動部門における多々の活躍に加えて、当校卒業生によるネットワーク、連携、母校愛は他校に負けないということで、東日本大震災時における卒業生同志の支援活動、やコロナ禍における卒業生の母校への支援などを挙げています。

次の②の諏訪地域を担う人材を育てる役割ですが、地域への貢献のみならず世界に広く視野を広げることができる人材の育成、諏訪地域の発展のため、地域内連携のみならず他地域との連携が積極的にできうる人材の育成、今後の地域が抱える課題に対して、積極的に取組み解決する能力を持ちうる人材の育成ということでございます。

【補足説明】

○岡谷南高校同窓会長 小口 博正様

学校の概要については今、説明をしていただきました。私の方からは、県の説明会が始まりました時に併せて、諏訪地区の9公立高等学校同窓会の情報連絡協議会をつくりました。県の説明会に諏訪地域協議会に同窓会の代表を出しました。その時出ました各学校の同窓会役員のご意見等、情報交換をしました。

私見です。現在山梨方面、及び県外の他地区に進学する学生は、諏訪地区におります。諏訪地区の高校の教育環境の構築、進学はもちろんですが、個性豊かな信頼される学生さんを育成し、より一層多数の学生さんが地元に戻ってきていただける仕組みを作っただけなければなりません。現状の各高校には県の方から優秀な人材が教職員として配置されておりますが、この激変する特に中学三年生が、クラス数にすれば12

学級が減ってしまう10年先、20年先を考えた時に、この激変を変えていくのは、私は行政の強力なリーダーシップのもと、学級数の多い学校をつくり、県からは現状にも増して優秀な人材を派遣していただいて、魅力ある教育環境を構築していくことが必要でございます。また、激変するこの時代を客観的に捉える一つの方向として、AIを活用して10年、20年この諏訪地区の教育の在り方のシュミレーションを是非して欲しいと考えています。人口減の中でも、県下に誇れる諏訪地方の教育を作っていくために以上の点をお願いいたします。また、今日このような発言の機会をつくっていただいたことに、感謝申し上げます。

○岡谷南高校同窓会 副会長 小野 正行様

私は現役で金融機関に勤めさせていただいています。特に産業界に携わっているOBの方といろいろと話す機会がございまして、それを踏まえてお話の方をさせていただきます。ご案内の通り当諏訪地区には綿々とした製造業、農業、観光業と歴史がございます。特に、旋盤技術等の製造業、それと特色ある農業、それと首都圏、中京圏から東京への観光ということで、他の県内もしくは全国にも引けを取らない集積地であると認識しています。そのような中で、私自身が懸念していることは、県内でも共通の課題でもあります、人口の減少であります。特に、高校生、少子高齢化が進んでいるという中で、今、会長さんからもお話がありました、他地域、それから他の私立学校への高校生のシフト等、大きな課題であろうと認識をしています。

そのような中で、諏訪地域につきましては、他地域にない特色あるプログラムが必要です。例えば、公立では、東京諏訪理科大があります。それからこの経済界、産業界を支えるNPO法人である、諏訪のものづくり推進機構が存在するというので、当地域の産業界をバックアップする組織がしっかり確立されているということでございまして、これは他地域にはない取組だと思います。そのような地域で是非子どもたちには、綿々としたこの歴史を引き継いでくれる人材として育てて欲しいと言うことが私たちの願いです。先ほどお話しました当地域につきましては、産学間で連携がされているということでございましたので、是非更に行政の皆様にもバックアップいただく中でしっかりと取組んでいきたいと考えています。

最後に一言、私が最近お話させていただいた、会社の社長さんのご意見でございますが、この諏訪地域の中で「やはり優秀な人材が戻ってきてくれる際には、大学教育がいるのではないのでしょうか。東京へいった学生たちが戻ってくるためには、大学へ行って、当地、諏訪はいい所だというアナウンスが必要です」という話をしましたら、その社長さんは、「何を言っているんだ。やはり中高での教育が一番重要でしょ」というお話がありました。「素晴らしい諏訪地域での教育が一番大事です」というお話もありました。是非、南高としての考えは文章にまとまっていますが、当地域の魅力ある教育の取組となりますように、皆様、行政の皆様にもお願いしたいと思っております。

⑧岡谷東高校 岡谷市教育総務課長 両角 秀孝(事前配布資料P8)

①の誇れる伝統につきましては、岡谷東高等学校は令和4年に創立110周年を迎える全日制普通科高校です。昭和29年当時、女子高だった本校は、3本ライン(空・湖・青春の青色)が特徴的な制服を制定し、この制服にあこがれ入学する生徒が現在も多くおられるとのことです。また、諏訪地方は、製糸業から精密業に移行しましたが、古くから職業婦人が多く、地域の担い手、それを支える保育士などの専門職を目指す生徒が多くおられ、伝統的に地域のボランティア活動などにも積極的に参加しているとのことです。

また、部活動も活発で、古くは東京オリンピック・バレーボール出場の渋木選手を始め、冬季オリンピック出場者や各界の著名な方々を輩出しているとのことです。

次の将来の諏訪地域を担う人材を育てるところでございますが、1年次は全員共通科目を履修します。2年次以降は「健康スポーツ」と「教養フロンティア」の2コースに分かれ、「健康スポーツコース」は、体育実技と福祉関係の専門科目を学ぶことができるコースということで、様々な分野のスポーツの実習や、福祉施設での実習を通して、諏訪地方の福祉の担い手となる人材の育成に努めているということでありまして。また、松本大学と高大連携推進事業を進めており、「教養フロンティアコース」は、基本的な知識と教養を

身につけ、社会人として活躍できる人材の育成に努めていることや、信州豊南短期大学と連携して専門的な学習を深めているということで、就職希望生徒の多くが地元企業に就き、進学者の半数は自宅から通学可能な学校へ進学しており、卒業後も地元とつながりのある生徒が多いことが特徴ということでございます。

次に、自由記載欄の意見でございますが、これからの少子化の現状を考えた時、岡谷東高校同窓会としては、岡谷東高校が今のままの存続はできなかつたとしても、募集停止・廃校となることだけは、避けたいと考えます。現在の岡谷東高校については、在校生からは「小規模校の良さもあり、先生方との距離が近く、親身になって相談に乗ってもらえる」などの話も聞くということでございます。他の地域からも注目されるような魅力ある学びができる県立の高等学校が、この岡谷にできたら、今以上に若者が集まり、地域も活性化するのではないのでしょうかという意見も頂戴しております。

⑨岡谷工業高校 岡谷市教育総務課長 両角 秀孝(事前配布資料P9)

①の誇れる伝統ですが、本校は明治45年に隆盛を極めていた製糸業の技術者を養成するため、平野村、現岡谷市が開校したのですが、開校してから令和3年に創立110周年を迎えます。この間、一貫して『ものづくり』のための教育を柱とし、諏訪圏域はもとより日本の底辺を支える、技術者の養成に努めてまいったところでもあり、長野県内の工業高校の中で、もっとも伝統がある学校でもございます。また、『技術者たる前に人間であれ』の校是を基に、人間教育にも力点を置いていること、部活動も盛んで甲子園準優勝の硬式野球部、全国制覇10回のバレーボール部、花園30回出場のラグビーフットボール部、全国制覇6回を数えるスケート部のほか、各運動部の活動を通じ『全人教育』を進めておられ、最近ではロボットコンテスト、ものづくり全国大会等へも出場を果たしているということでございます。

次の将来の諏訪地域を担う人材を育てる役割ですが、諏訪地域は日本の『ものづくり』産業の集積地であります。その中で、唯一の工業高校であり、今後も地元企業からの「技術者養成」への期待は大きく、ここ数年は「就職率100%」を達成しているということでございます。今後社会は、よりAI化が進んで行く、目先の人材育成はもちろん、将来を見越した製造業の技術者を育てる必要がある。さらに現在、製造現場では自動化、機械化では対応できない「匠の技」を持つ職人的な人材育成が重要となっており、現場の声を反映した教育が望まれる。高等教育としての「高大連携」も課題である。伝統の部活動による見えない教育も重要とのことであります。

最後に、自由記載で頂戴した意見でございますが、少子化には歯止めがかからない状況で、学校再編は必要不可欠な課題である。圏域で将来像を見据えていくことは重要であるが、どうしても「伝統高校」といった自負、「進学高校」「職業高校」という色分けで見られがちである。市町村や圏域として、それぞれの将来像を示し、その中で高校の位置付けがどうあるべきかを考えていく必要がある。また、普通高校、職業高校を一緒くたに考えるのではなく、圏域を超えた在り方を考えることも重要であろうとの意見を頂戴いたしました。

(2)委員相互の意見交換

発言者	内 容
司 会	<p>9校から報告を頂いた所でございます。それでは本日のまとめとしまして、委員間の意見交換に移りたいと思います。本日説明をいただき、各校の同窓会からの意見を伺いました。普通高校、専門高校の違いはありますが、これらの意見につきまして、諏訪地域全体の意見としてキーワードを載せていきたいと思いますが、そのキーワードについて、委員の皆様からざっくばらんにご意見をいただきたいと思います。</p> <p>3つの項目がございました。①の貴校の誇れる伝統というところでは、各学校のこれまでの歴史や、校是、取組の経過が載せられています。どれも大切にしたい伝統であると思います。そして、協議会として意見書に反映すべきご意見をお願いしたいのですが、②の将来の</p>

	<p>諏訪地域を担う人材を育てる貴校の役割では、意見集約に含めるべき文言についてもご意見ををお願いします。</p> <p>それから、③の自由記載のところでは、高校再編だけに関わらない、とらわれない教育に関する広い視点からご意見があったかと思います。他にも含めるべき文言や項目があれば出したいと思います。このような視点でそれぞれ皆様から、ご意見をいただきたいと思いますので、挙手を持ってご発言をいただきたいと思います。ざっくばらんな意見交換の中から、私たちがお伝えすべき表現が出来上がると思いますので、どうぞご遠慮なくご意見をください。</p>
委員	<p>聞いていまして、具体的なことよりちょっと大きな言葉で考えたのですが、結局、統廃合がゼロベースかということはどう考えるかということです。きっと伝統校であれば、いろいろとゼロベースだと異論が出でくる、でもゼロベースならば異論がでないのかなとも思ったりするわけですが、ゼロベースでも何を基にするかによってまたそこで意向が出てきてしまう。私は結論をいう訳ではありませんが口火としまして言っています。</p> <p>もう一つは、この通学区内に中高一貫校が一つありますが、実際の中では小中一貫校を目指している自治体もありまして、そのあたりの整合性と言いますか、ある意味で内外等の課題もあると思います。しかし、小、中、高、大学入試まで含めて全体を考えないと何も言えない。この第7通学区だけの統廃合をどうするかということだとちょっと小さくなりすぎるのではないかと思います。まったく結論にはなりません。</p>
司会	<p>勇気ある口火を切っていただきありがとうございます。委員さんから統廃合の面とか、別の所属についてご心配の事がありましたが、その段階につきましてはもう一步次のことを見越しているいろいろ考えたいのですが、この高校の将来像を考えることに関わります意見につきましては、この諏訪地域にある高校でどんな教育が行われ、生徒がどんな生徒たちになって欲しいか、まずそこを話し合うという大きな目標がある訳です。その後で、そのレイアウト等になると思います。</p> <p>今、私たちは集中して意見を県の方に上げていきたいことは、この地域で行われる高校教育、あるいはここで学ぶ高校生たちがどんな人材に育っていくのか、そのことをまず話し合い、キーワードとしてまとめいきたいというのが趣旨の第一義でありますので、今委員さんがおっしゃっていただいたことは、その先に来る話だと思います。原点のところをしっかりと固めていきたいと思います。</p>
委員	<p>今、各校のご紹介とご意見をお聞きしました中で考えて見ますと、やはり、大学教育は、文系、理系と大雑把に、その二つが昔から分けられると思いますので、そう言ったところから専門性に繋がってくるということになると、一般教育の中を文系、理系と、また理系の中を、プログラミングとかAIとかという実質的な部分、実験的な部分など、専門性を求めた学校みたいなものが、これから学生さんたちの望む形の教育になっていくのではないかと思います。その中で、取捨選択を行っていけば、学生の方たちは、自分の将来を見据えた高校を選ぶようになっていくのではないかと率直に感じました。</p>
司会	<p>ありがとうございます。学ぶ子どもたちの気持ちになって、次の視点、自分は何を学ぶのかという視点でのお話かと思います。同窓会の皆さんの中からは、学校の規模、一定の人数、学級数というものがないと、クラブ活動とかいろいろな活動が難しいので、やはり規模の大きさは必要であるというお話がありました。キーワードとして、他にもいろいろと気づくご発言がありました。皆様から、気付いたこと賛同されることとか遠慮なくご発言をお願いします。</p>

<p>委 員</p>	<p>先ほど同窓会の会長さんからお話がありました、私は富士見ですので、富士見高校は2クラスで、この前も申し上げましたが、4クラス以上でないと、学習活動もクラブ活動もしっかりと出来ないということです。クラブ活動というのはやはり、野球にしても、クラブというのは自分たちで研究しながら自分たちで創っていく、野球の監督が意図的に抑えるのはクラブ活動ではないです。だから、自らで考えてクラブ活動をしていくのがクラブだと思う。そういう意味においては、どこかの3つの高校と一緒にやって野球をするとかそういうのは非常に可哀そうだと思うのです。各高校での学級数は、一学年4学級以上というのは当然ではないかと思えます。</p> <p>それからもう一つですが、授業が分かる、出来るというのは違うのです。今の高校生は出来るという授業が多いのではないのでしょうか。知識を持って細かい所の知識が多く、クイズなんかも出来ると思いますが、そういう、授業が結構多いのではないのでしょうか。分かるというのは、根本的に基本的に水準以上に分かる授業じゃないと出来ないと思う。その意味においては、各高校とも、これは学校の先生たちにも要望があるのですが、穴埋め式なアチーブメントリーダーの問題ではなくて、やはり過程プロセスを大切にしていって授業をきちんとやれば、どの学校も生きていくのではないかと思っています。ですから、ただこの学校が受かったとか、大学の先生に聞くと、わりかし合格はするが後から伸びていかない生徒が大勢いるようです。そういう、きちんとした諏訪の高校生の土台を一つずつ作りながら行かないといけない。</p> <p>中学生に言うのですが、今、保護者も学校もあまりにも要求がありすぎて、土台が無くて、三角形の土台ががっちりしていなければならないのに、頂点ばかり要求しすぎて、今、逆三角形が崩れかかっているようなものになっている。やはり土台をしっかりした授業、学習をしっかりやっていただければ、諏訪郡全体が伸びていくのではないかと思っています。</p>
<p>司 会</p>	<p>委員さんには、教育の根幹ともいえる、自主性とか、人間の土台をつくること、出来る、分かる授業という大切なこととお聞きしたと思います。人材育成、人材育成と言いますが、私も最近ある方から、「人物がいなくなった」ということを言われました。人材と、この人は人物だと言う人物とはちょっと違いがありますが、発想したところは技術的なAIですか、先ほど、テクノロジーの話をしました、新しい世界に必要なスキルはどうしても身に付けなければいけませんけれども、その前に人間としてあり方を考えなければという意味ではないかと思えます。</p>
<p>委 員</p>	<p>先程、会長さんの方からキーワードというお話がありました。将来の諏訪地域を担う人材という部分になりますが、これらの同窓会の皆さんの思いから、僕は2つあると思います。1つは地域に戻って来たい。高校に入って更に大学に行くなりして、あるいは地域どちらでもいいですが、地域に郷土愛をもって、誇りをもって、そしてこの地域に、諏訪地域に貢献できるという人材、それと、知識を沢山もって世界に羽ばたいて行くような人材。どちらにしても、自分が諏訪に戻って地域を活性化していきたいという人材と、そして、もっともっと広い視野を持って、日本あるいは世界で活躍できるようなそんな人材が育成できるような、そんなきっかけになるような方向になればと思う。今としては地域、地域愛、それと日本、世界という2つの視点をもつキーワードが是非必要になるのではないかと思う。</p>
<p>司 会</p>	<p>その通りだと思います。先ほどの説明の中にも、職業高校であったり、地域で活躍していたりする方など、地域で力を注いでいる方々また、世界でメッセージを発信している方々、どちらも同じ必要な教育であるということで受け止めさせていただきました。</p>
<p>委 員</p>	<p>皆さんのお話を聞いていて、ちょっと不思議に思ったのは、質問になってしまうかもしれま</p>

	<p>せんが、今、進めているところのトップである、人材育成の成果というところを見させていただくと、こんな人も出ましたということもあるのですが、ここ近年において自分たちの学校の卒業生がどんなところに進学したとか、就職したとか、大学進学したらその後どんなところに就職したのか、例えば人生設計において、高校を卒業してからどういう風になっているのかが余り見えてこないというところがあります。例えば就職しなくても、一研究者として学んでいるという人もあれば、自分の市のところで名前がでるような方もいらっしゃるして、各高校における人材育成の成果というものでは、そういうデータが欲しかったかなと思います。</p> <p>たとえばキャリア教育もそうです。コースが分かれていますよね。そのコース毎にどのような方々が、どういう所に就職しているのか、例えばこの高校で学んだことをもっと深めたいと思って、進学希望ではなかったけれど進学することにしたとか、そういうような魅力ある高校が必要だと思います。先ほども言いましたが、魅力ある高校とは、自分の人生設計が出来るきっかけを与えてくれる高校だと思うのです。なので、当然高校としては学びに重点を置くのですが、中学生の前の意見を見てみると、やはり学びよりも充実した楽しい学校生活を送りたいという希望がほとんどで、保護者の意見は、やはりきちんとした社会生活が送れるようにという意見が多かったように思います。コミュニケーション能力とか、たとえば一流高校とか、一流高校という言い方も変ですが、一流大学へ行って卒業して一流の所に就職したとしても、社会生活ができる人物というものが出来ていなければ、そこで挫折してフリーターになったりとか、無職になったりという例がいくらでもある訳です。</p> <p>いろいろと申し上げましたが、本当に小学校、中学校で地域愛、地域に密着した溢れる愛情で子どもたちが育って、人間が好きになる、人が好きになる、仕事が好きになる、この社会で一緒に生きて行きたい、という思いを育てておいて、高校で自分の将来についてはこうなっていくのだという、考える力を付けていただきたと思いました。</p>
司 会	<p>とかく学校というと、学ぶことということに意識が行きがちですが、毎日通う学校の生活の中で、コミュニケーションとかいろいろとおっしゃっていましたが、自分の人生設計のきっかけ、目標みたいなものを見つけようとか、そういった充実した学校生活が大事です。一生をかけていくための基礎をつくる高校生活ですが、そのために必要な経験というものが出来るということが大切だということをおっしゃっていると理解をしました。</p>
委 員	<p>同窓会さんのご意見それぞれ、なかなか良くまとめておられます。印象的なのは、ここにありますように、専門性を持つという考え方、あるいは多様性、多様性という意味では、諏訪実さんのように、夜間高校を含めた多様性だなと思っています。先ほどの委員さんからお話がありましたが、郷土愛に限定しても、そういう意味では魅力的な高校が求められるのかなと思いました。郷土愛があれば、地域に留まる人材、あるいは地域から出て行く人材の両方の人材があっても、結果的には地域と結びつく、という期待が持てるのか、そういった教育、あるいは高校教育が大事なのかなと思いました。そういう意味では、個人的意見ですが、高校教育という見地ではなくて、町づくり、地域づくりということと一体化したものが求められると思います。</p>
司 会	<p>先ほどの報告の中にも、広く大局的な判断で行動することが可能となる過程や、そういうことを視野にいれるというお話がありましたが、只今委員さんからは、町づくりや地域づくりの一つの部分としての、今後の方向、認識が必要ということ、郷土愛ということも一つのキーワードとして教えていただいたと思います。</p>
委 員	<p>各9校のご意見聞かせていただいて、それぞれの高校には、それぞれの突出した色んな専</p>

	<p>門性があるという風に感じました。私が感じたのは、今高校生も、うちの大学校の学生も同じですが、ほとんどの学生がスマホを持っています。その中で、各高校の一番いい所というのを、例えばですが、オンライン授業をすることで、諏訪地域9校のどこでも見られる、そういうものが出来れば非常に面白いなという気がしました。その中で、もちろん色々な専門性、多様性があると思いますが、この学校に行ったから出来ないという訳でなく、この学校にいてももちろん学べる、コロナ禍だからこそ、先ほどテレワークとか、金子会長のおっしゃっていたワーケーションとか、そういうものもある。今、会議もみんなオンラインでしておりますが、そういうものは高校生の子どもたち、非常に取っ付きが早いですね。そういうところを考えていきたい。</p>
司 会	<p>恐らくここで世界もそうですし、ちょっと遅れていると言われている日本社会もかなりのスピードでインフラストラクチャーが行われると、今までの一つ一つの高校の枠に捉われない、それを越えた新しい認識の下での教育という可能性もあるのではないかとご指摘ではなかったかと思えます。そして、視点も時代先取りという面では、革新かと思えました。</p>
委 員	<p>今、各学校の同窓会の資料を作っていただいて、諏訪地域のそれぞれの高校がプライドを持って、教育活動を行っていることを強く感じました。特にその部分を考える時には、大事にしながらやっていきたいなと思えました。そこを忘れてしまうと、折角積み上げてきた諏訪地域の素晴らしい記録、特に戦前の教育活動に僕は興味があるのですが、そこで培われたノウハウを含めて諏訪地域が、先進的な役割をずっと果たしてきていると思うのです。そういうところを考えるようなことができる、諏訪地域に必要な人材とは、どのような人材なのだろうか。そういうことを、ここでもう一度考えて見る必要があるのではないかとこのことを強く感じました。</p> <p>特に最近、たとえばコロナの関係で、リモートだとか色々なことが言われています。その中で、AIを活用した教育も言われていますが、その先を考える必要があるのではないのでしょうか。特にこのコロナの問題が発生して以後、強く感じています。今、子どもたちがコロナの影響で、学びが、協働の学びではなくて、個々のコンピュータを使ったり、ネットを活用した学びへシフトしていていると思うのです。でも本当の学びはそうなのか。子どもたちにとって、先ほど部活の話もありましたが、部活動で得られるものは、人間教育にとって非常に大事な役割をもっているものです。それをお互いに協働でものを考える知恵を出し合う、そして新しいものを創造していくところがすごく大事だったのではないかと。ですので、折角の機会なので、そこにある今回出された将来の諏訪地域の人材を育てる貴校の役割があります。そこを考える時に、これから先、コンピュータのその先は何だろうかというところを論議しながら、新しい諏訪地域の教育像みたいなものを、この会議の中で創り出せたら良いかな、そういうことを基にしながら方向をどのようにしていくのか、ある程度方向が見えてくるのではないかと思いました。</p>
司 会	<p>それぞれの伝統に込められた価値、それが無くなるということではなく、その上にまた新たなものが積み上がってくるという考え方でよろしいでしょうか。それから、学びもテクノロジーによって変わるけれども、人と人との触れ合いですとか、子ども同士の切磋琢磨とか、人間関係から学ぶものがあることをもう一度整理してみたいと思えます。</p>
委 員	<p>先ほどからお話の中に出ていて、地域に留まる、あるいは富士見高校の同窓会の方のところにも、諏訪の子どもたちの外部への流出ということが書かれていますが、実際中学校の方で、どの位の子ども達が、流出しているのかということですが。年度末の入試の関係で言い</p>

	<p>ますと、318名の諏訪の生徒たちが、他の通学区、あるいは他県へ流出しています。諏訪郡市のこの地域の特色上、松本関係あるいは、同じ商業圏であるかなと思うのですが、ここ数年非常に多くの子どもたちが流出しています。特に、山梨関係が例年非常に多く、去年で言いますと70名ほどの子どもたちが流出していて、出来れば諏訪の子どもたちを諏訪で育てたいなと思っていて、諏訪の高校に進学して欲しいという気持ちは本当にあるのですが、今の子どもたちは色々と自分の進みたい進路を持っています。部活動の関係もあります。今年も、本校の事で言いますと、広島の広陵高校の野球部から声が掛かっています。非常に色んなところに興味を持って出て行くのです。果たして、どうすれば諏訪の子どもたちが、諏訪の高校を目指して進学できる状況を作ってあげられるかという、非常に難しさを感じています。先ほど、何人かのお話をお聞きしながら、専門性だとか、多様性だとか非常に良い話も聞かせてもらいました。また、高校の先生方と話をする機会も多いのですが、それぞれの高校では今、非常に興味を持てる教育課程を考えられています、そのところうまく一体化できていないところがあると感じています。うまく諏訪の高校の良さが子どもたちに伝わるような、そんな場面をつくる必要があるなと感じています。いずれにしても、諏訪の中学生を諏訪の高校で頑張らせたいという気持ちは非常に強く持っているのですが、難しさを感じています。</p>
司 会	<p>今318名が区域外に進学しているという数字をいただきましたが、これ3学年でいいですか。</p>
委 員	<p>昨年度のものなので、進学者の18%が他へ流出しているということです。</p>
司 会	<p>この諏訪地域の中に、学びたいと思える高校が無いので、他へ行ってしまう。ここは考えなければならないことです。その点は、県でも考えていただければと思いますし、諏訪の先生方は、各校で魅力ある教育課程や取組をしていただければと思います。どんな学校がこの地にあつたら良いのか、まさに今回のテーマの一つの切り口であると思います。議論を深める場面はまた別にしたいと思いますが。</p>
委 員	<p>各高校の同窓会の意見聴取の機会をもたれているのですが、私の感想としては、基本的には各同窓会の皆さん方が自分たちの高校について、我々の高校はこの際必要な高校なのだ、もっとどちらかと言うと、自分たちの意思だとか考えが多くでてくる意見書になるのかなという風に思っていたところですが、逆に皆様方のご意見は、こういう設問でもあるということで、創造的にこういう人材がこの諏訪には必要だ、というようなまとめ方になっていると思います。今後、泥臭い部分というのは、また出てくるのではないかと思います。今度は個別に各問題の中身に対して、もう一度逆にいうと本音を引き出すような、そういう意見聴取がもう一度される予定があるかどうか、そのあたりのことが今日お話を聞いている中で気になったところです。</p> <p>ただ、高校再編はどうしても必要ですし、先ほどから皆さんにお話がありましたが、やはり伝統とかそういうものにとらわれないで、本当に先を見た時に、こういう教育が、こういう高校が諏訪に必要なというような大局的な視点から、いろいろリセットで考えていくことはどうしても必要なことではないかと考えています。</p>
司 会	<p>本音がもう少し飛び出すという事でしたが、本日はペーパーをお配りしてもらいまして、質問等いただけ場にもなっておりますので、是非ご利用をいただきたいと思います。</p> <p>幹事会、委員、県の方々がいらっしゃいますが、あえてご指名はしませんでした。ここでどうしても発言しておきたいという委員さんがいらっしゃいましたらお願いします。</p> <p>本日の意見交換につきましては、以上とさせていただきます。さまざまなご意見をいただ</p>

きましてありがとうございました。これらのご意見を基に、事務局の方で意見書に反映をさせていきたいと思っています。本日はご協力いただきましてありがとうございました。
--

7 その他

先程、協議会の今後のスケジュールにつきましては、ご説明した通りです。これまで様々なご意見を頂戴してまいりました。これらのご意見を基に県の教育委員会に提出する、意見書の素案を事務局並びに幹事会において議論を深めて作成してまいります。その原案が、幹事会でまとまり次第、次のこの協議会を開催し、今度はその素案、原案について各委員からご意見を賜りたいと考えています。開催時期の目安といたしましては、10月から11月頃の開催を目安に、準備を進めて参りたいと思います。あらためて日程が決まり次第、開催通知をご案内いたしますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上ですが、何か全体を含めてご質問等ありますか。

〔質問〕

お願いがあります。先行事例ですでもう何年か前に統合した学校がいくつか県内にあると思いますけれど、その推移といいますか、こんな学校はこういう状況の中で統廃合されていってこういう高校になった、その高校は現在こういう状況にあるというような資料を是非頂ければ参考になるかと思います。ご検討いただければと思います。

県教委の方と事務局で調整をして、ご意見に沿えるよう準備を進めて行きたいと思っています。

8 閉会（閉会のあいさつ）

（副会長）皆さんご苦労さまでした。同窓会の皆様の丁寧なご報告をいただきまして、それぞれの学校、更に、伝統、歴史を積み重ねていること、地域に支えられているということ、そんなことを実感させられました。そうしたものを大切にしながら、また、皆様から大変貴重な意見を沢山いただきました。感謝しながら、本当にこの地域にどういふ高校を皆さんと共に作っていくのかという議論を更に、深めて行ければなと思っています。今後とも会の運営にご理解、ご協力をいただきたいと思います。以上で諏訪地域の高校の将来像を考える協議会を終わらせていただきます。